

1. 対象症例の背景

■ 対象症例の Stage(規約第7版)別予後

【盲腸～横行結腸癌】

		術後5年時点での		
	症例数	再発症例数	全死亡症例数	原癌死症例数
Stage II	[]例	[]例	[]例	[]例
Stage IIIa	[]例	[]例	[]例	[]例
Stage IIIb	[]例	[]例	[]例	[]例

【下行結腸～RS癌】

		術後5年時点での		
	症例数	再発症例数	全死亡症例数	原癌死症例数
Stage II	[]例	[]例	[]例	[]例
Stage IIIa	[]例	[]例	[]例	[]例
Stage IIIb	[]例	[]例	[]例	[]例

【直腸癌】

		術後5年時点での		
	症例数	再発症例数	全死亡症例数	原癌死症例数
Stage II	[]例	[]例	[]例	[]例
Stage IIIa	[]例	[]例	[]例	[]例
Stage IIIb	[]例	[]例	[]例	[]例

■ 1症例あたりに作製される原発巣のプレパラート数

	1症例あたりに作製される原発巣のプレパラート数 (リンパ節のプレパラートを除いて下さい)	
	中央値	平均値
結腸癌(盲腸～横行結腸)	[]枚	[]枚
結腸癌(下行結腸～RS)	[]枚	[]枚
直腸癌	[]枚	[]枚

■ 病理組織学的に評価されたリンパ節個数

【盲腸～横行結腸癌】

	全てのリンパ節個数		腸管傍領域のリンパ節個数	
	中央値	平均値	中央値	平均値
Stage II	[]個	[]個	[]個	[]個
Stage IIIa	[]個	[]個	[]個	[]個
Stage IIIb	[]個	[]個	[]個	[]個

【下行結腸～RS癌】

	全てのリンパ節個数		腸管傍領域のリンパ節個数	
	中央値	平均値	中央値	平均値
Stage II	[]個	[]個	[]個	[]個
Stage IIIa	[]個	[]個	[]個	[]個
Stage IIIb	[]個	[]個	[]個	[]個

【直腸癌】

	全てのリンパ節個数		腸管傍領域のリンパ節個数	
	中央値	平均値	中央値	平均値
Stage II	[]個	[]個	[]個	[]個
Stage IIIa	[]個	[]個	[]個	[]個
Stage IIIb	[]個	[]個	[]個	[]個

■ 腸管傍リンパ節転移が陰性である症例数

【結腸(盲腸～横行結腸)癌】

Stage IIIa []例

Stage IIIb []例

【結腸(下行結腸～RS)癌】

Stage IIIa []例

Stage IIIb []例

【直腸癌】

Stage IIIa []例

Stage IIIb []例

2. 進行大腸癌の摘出外科標本の扱い

2004年当時の実状として最も当てはまるものを選択ください。

■ 新鮮摘出標本の整理をおこなう医師

【専門】	【資格】	【卒後年数】
A. 外科医	A. 大腸肛門病学会専門医	A. 1～2年目
B. 病理医	B. そのほか	B. 3～4年目
		C. 5～9年目
		D. 10～15年目
		E. 15年目以降

■ リンパ節を抽出する時期

- A. ホルマリン固定前
- B. ホルマリン固定後

■ 固定標本の作製方法

- A. 新鮮標本の状態で腸管を切り開き、切開標本を平面状にした状態で固定する
- B. 腸管を切り開くことなくホルマリン固定し、解剖学的に生体内に近い状態を保ったまま切り出しをおこなう

■ 原発巣直下リンパ節の検索方法

【結腸(盲腸～RS)癌】

- A. リンパ節の検索を重視し、原発巣が露出しない程度までリンパ節を検索する
- B. 剥離断端の評価を重視して原発巣周囲の脂肪組織には手をつけず、原発巣直下のリンパ節は原発巣と一塊に提出する
- C. 特に意識せず

【直腸癌】

- A. リンパ節の検索を重視し、原発巣が露出しない程度までリンパ節を検索する
- B. 剥離断端の評価を重視して原発巣周囲の脂肪組織には手をつけず、原発巣直下のリンパ節は原発巣と一塊に提出する
- C. 特に意識せず

3. 進行大腸癌の病理標本の作製過程

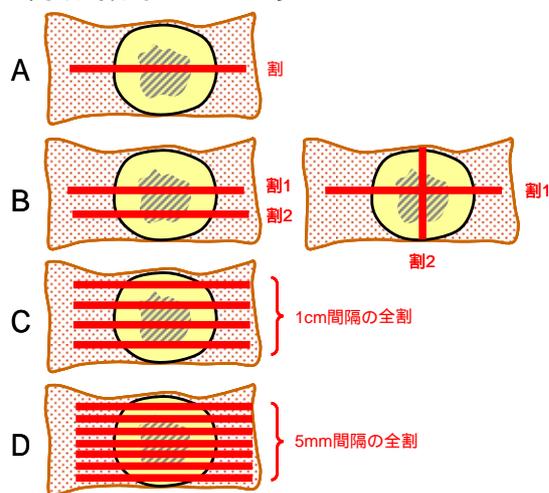
各施設の病理の先生にご確認ください。

2004年当時の実状として最も当てはまるもの（近似も含む）を選択ください。

（1）原発巣の標本作製過程

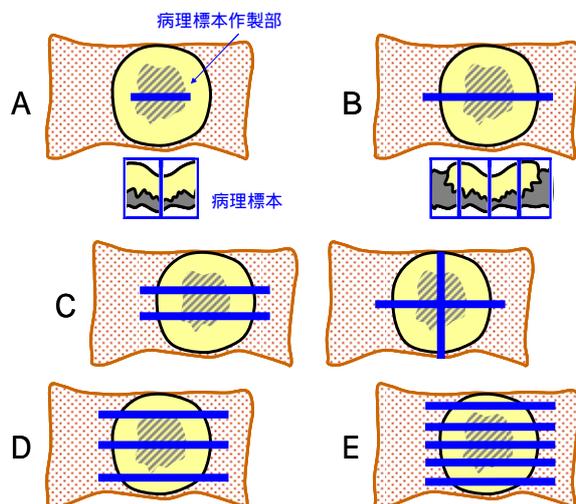
■ 原発巣への「割」の入れ方

- A. 腫瘍部の中心部を通るラインにのみ「割」を入れて断面の肉眼的観察をおこなう
- B. 全割はしないが、複数の「割」を入れて断面の肉眼的観察をおこなう
- C. 1cm前後の幅で全腫瘍部に「割」を入れて断面の肉眼的観察をおこなう
- D. 5mm前後の幅で全腫瘍部に「割」を入れて断面の肉眼的観察をおこなう



■ 全周性の腫瘍においてプレパラートを作製する断面数

- A. 腫瘍の代表部分のみをプレパラートに作製する
- B. 腫瘍全体を含む代表1断面をプレパラートに作製する
- C. 腫瘍全体を含む2断面をプレパラートに作製する
- D. 腫瘍全体を含む3断面をプレパラートに作製する
- E. 全腫瘍部に等間隔の割を入れ、その全てをプレパラートにする



（2）リンパ節の標本作製過程

- リンパ節として病理に提出された標本は、すべて組織標本としますか
 - A. する
 - B. しない（リンパ節でないと判断したものは標本化しない）
 - C. しない（転移でないと判断したものは標本化しない）

- ホルマリン固定されたリンパ節の切り出しにおいて、門（hilus）に留意しますか？
 - A. 留意する
 - B. 留意しない

- ホルマリン固定されたリンパ節に複数の割を入れて肉眼的に転移部分を探索しますか？
 - A. する
 - B. しない

- ホルマリン固定されたリンパ節に割を入れ、意図した断面が薄切されるようにパラフィン標本作製時に調節しますか？
 - A. する
 - B. しない

- 同じ領域に大小様々なリンパ節が存在する場合の包埋はどう行いますか？
 - A. リンパ節を個々に包埋する
 - B. 大きさ別にリンパ節をグループ化して包埋する
 - C. 全てをまとめて包埋する - そのまま包埋
 - D. 全てをまとめて包埋する - リンパ節に割を入れて包埋
 - E. 全てをまとめて包埋する - 各リンパ節を数珠状に連結させて包埋する